

能登半島地震の被災地に 市職員を派遣

5月21日～28日、兵庫県を通じた石川県珠洲市の要請で、義援金等事務支援のため市職員2人を派遣しました。

現地では、珠洲市総務課危機管理室に所属し、義援金申請の受付業務や電話対応などを行いました。

派遣職員は「申請者の話をよく聞き、丁寧に制度を説明することや、追加で利用できる制度があれば、案内するように心掛けました」「申請可能な手続き一覧パンフレットの作成やLINEが活用されている状況を目にして、災害に備えて事前に準備できることがありと感じました」と話していました。

今後とも要請に応じて市職員を派遣します。

《問合せ》危機管理課 ☎23-11111



▲義援金等の申請者が帰った後、記入漏れがないか提出書類の再確認を行った

市ホームページ
今までの派遣履歴などをお知らせしています▶



豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ 対策検討委員会を設置

本市では「多様性を受け入れ、支え合うリベラルなまち」を目指して、これまでジェンダーギャップ解消、男女共同参画、多文化共生の推進に取り組んできました。これらに加えLGBTQ/SOGIE*など新たな人権課題の研究を行い、総合的な多様性の推進に向けた指針を策定するため、検討委員会を設置しました。委員会では、豊岡市多様性推進アドバイザーの田村太郎さん（二財）ダイバーシティ研究所代表理事）から助言をいただき、多様性推進の指針を策定するとともに、さまざまな施策について検討していきます。

※SOGIE（ソジー）：性的指向、性自認、ジェンダー表現の頭文字で、性の多様性を表す言葉

《問合せ》多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 ☎21-9004



▲昨年11月17日に開催した「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議」の様子。今後、豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会では、豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議と豊岡市多文化共生推進会議の協議事項も含めて検討する

市政 ニュース



〔5月〕 主な市政の動き

- 21日 ・能登半島地震に係る義援金等事務支援のため職員を派遣（～28日）
- 27日 ・各国駐日大使・大使夫人が来豊し中学校で交流授業を実施（～28日）
- ・市内中学3年生を対象とした市長の「ふるさと教育」（～7月9日）
- ・地方創生戦略会議

〔6月〕

- 28日 ・おんぶの祭典（～6月2日）
- 31日 ・市議会6月定例会（～6月26日）
- 1日 ・植村直己冒険賞授賞式
- 3日 ・トライやる・ウィーク（～7日）

大雨や台風などに備え

命を守るための避難行動の確認を

大雨や台風の季節を迎えました。

円山川の下流に位置する豊岡盆地周辺は、緩やかな勾配のため、氾濫が起りやすい地形です。一方、山間部には、がけ崩れ、地すべり、土石流などが予想される区域に人家が多数存在しています。

昨年8月には台風第7号の接近に伴い、5年ぶりに豊岡市災害対策本部を設置しました。市内では土砂崩れや冠水が起り、人的被害や床上、床下浸水などの被害が発生しました。

風水害での被害を最小限に抑えるため「自分たちの命は自分たちで守る」という心構えのもと、日ごろから家族で避難行動を十分に確認してください。 《問合せ》危機管理課 ☎23-1111

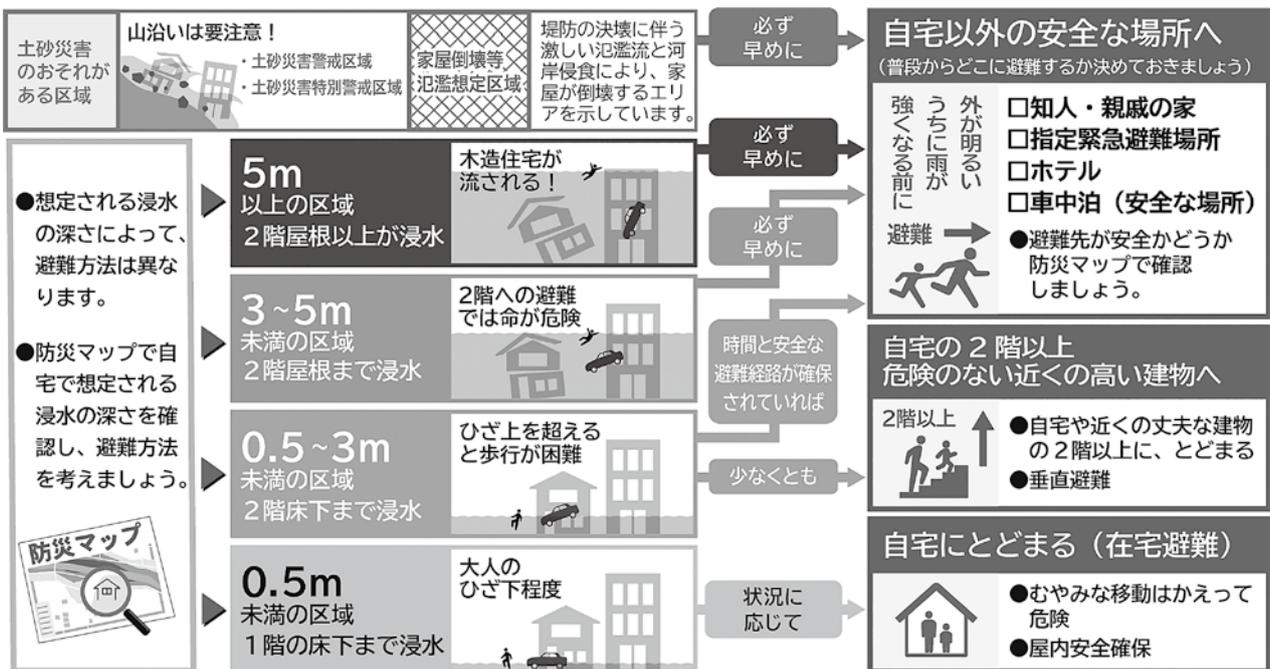
自宅の災害リスクを確認

事前に避難先を決めておこう



「避難」とは、災害から命を守る行動です。市の指定緊急避難場所に行くことだけが避難ではありません。知人や親戚の家、ホテルや職場・車中泊などさまざまな避難先があります。下の図を参考に、防災マップで想定される自宅の災害リスクを確認し、事前にどこに避難するかを具体的に家族で決めておきましょう。

避難先の考え方



事前に避難するタイミングを決めておこう

災害の被害を最小限に抑えるため、下の図を参考に、避難先への避難を開始するタイミングを、事前に家族で確認しておきましょう。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

【はい】 → (警戒レベル3) 高齢者等避難が出たら避難開始

【いいえ】 → (警戒レベル4) 避難指示が出たら避難開始

市からの避難情報にかかわらず、雨の降り方から危険を感じたら早めに避難しましょう
高齢者の方、避難に時間を要する方は、早めの避難を心掛けましょう